

令和6年度 第2回多治見市喫煙対策検討会議 議事概要

日時 令和7年2月13日（木）13時30分～15時00分

場所 バロー文化ホール 2階 練習室1

○出席者 13名

○欠席者 2名

○事務局 谷口、横田、服部、田中

1. 保健センター所長挨拶

2. 会長挨拶

3. 議題

（1）令和6年度の活動について

事務局	資料に沿って説明 1. 飲食店における受動喫煙対策アンケート 2. 防煙教育 3. 禁煙外来治療費助成事業 4. 健康づくり推進の活動 5. タバコ対策講演会
会長	市の取組報告があったが、県ではどのような取り組みを行っているか
委員	・東濃3市の学校28校へ防煙教室の実施を案内し、申込みのあった1校で5年生に対して防煙教室を実施した。 ・世界禁煙デー、禁煙週間に総合庁舎内で啓発活動を実施。それとともに健康経営宣言の登録企業にタバコに関する資料を送り、活用を依頼した。 ・ぎふ禁煙宣言（敷地内全面禁煙の企業）を県のホームページに掲載している。 ・ぎふ健康経営宣言企業の受動喫煙対策について事例集を作成、配布をしている。 ・その他相談や苦情の対応をしている。
委員	薬局で生活習慣病予防の話をすることはあるが、タバコのことより食事の質問が多い。多治見は対策が進んでおり、喫煙者が少ない印象。
委員	歯科医院での禁煙の相談はない。ヤニを落としてほしいという注文くらい。タバコが歯ぐきに致命的な影響を与えるという話はしている。
委員	多治見では、事業所からのタバコの相談を受けたことはない。従業員の受動喫煙防止のための助成金の制度があるのでその案内をしている。 法令で「快適職場」を目指している。それを根拠に指導することは可能ではあるが、そこまでの訴えのあるケースはまだない。
会長	禁煙外来治療費助成事業が令和7年度末で終了予定になっているが、毎年申請数が増え

	ているということはニーズが増えていると思われる。今後も継続することを希望するが皆さんはどうか。
委員	一同賛同

(2) 防煙教育マンガの完成について

事務局	小学生版、中高生版の2種類を作成。 岐阜大学額縁委員の監修のもと修正を加えながら作成した。第1回会議での意見等も反映し、より良い媒体になった。活用方法について委員の皆さんのご意見をいただきたい。
会長	ご意見ご質問はありませんか
委員	マンガを通して知識が分かりやすく伝わってくる、とても良いマンガだと思う。今の子どもたちは、ただダメと伝えるだけでは通じない。理由をきちんと理解したうえで判断するという教育をしている。マンガを通して正しい知識を身につけたうえで、判断できるように育っていくと良いと感じた。 小学生も中学生も授業でタバコについて取り扱っている。活用方法の案として、まず授業で教科書とマンガで学び、一度持ち帰って家庭でも家族と読んでもらうと良い。それをまた学校に置いておき、心配な長期休業前にまた配布して何度も読んでもらうことで子どもたちだけでなく、家庭内での啓発にもつながるとより効果的だと考える。
委員	保健室に置いていたら来室した生徒が手に取って読んでいた。高校生が好きそうなイラスト、タイトルだと思う。 保健体育の授業で読むこともできる。各教室に置いてもいい。図書室に他のマンガも置いてあるため、図書室にあっても良い。文字だけではあまり読まれないため、イラストで学べるのは良いと思う。
委員	はじめの方はマンガらしく文字が少なく読みやすいが中間は情報が多い。伝えたいことが多いので仕方ない、子どもたちには導入が大事なので良い。工夫されていると思う。 重要なのは、このマンガをどのようにPRするのか、現場がどのように活用するか。今度は受け手側がどう活用するか。 先ほどの活動報告の中で、DVDも実施していない学校がありもったいない。学校長は承知しているのか。マンガもどこが窓口になるのかを含めて検討すると良い。 禁煙教育は学校でやるものだとは認識されがちだが、一番大事なのは家庭。家庭にどのようにおろしていくか。実施後のアンケート等の検証も今後重要なところ。
委員	読みやすく、内容が入ってきた。 小学6年生が対象になっているが、もっと低学年の子でも読めそう。公民館や交流センターに設置しても良い。親子で読むのも良い。
委員	内容は手に取りやすく見やすいものになっている。学校だけでなく地域の様々な施設に設置して、色々な人に手に取って読んでもらえると良い。自己決定がとても大切なので、タイトル「僕らの選択」は、そこを重要視していることが分かって良い。 どう活用していくかがとても重要。評価が重要。改善につながるように、改善してさらによいものにしていくサイクルが大事。評価できるように、目標設定や活用の仕方の計

	画を立て、評価できる仕組みを作って次につながる事業にすると良い。 このような媒体をつくっている自治体は他にないと思う。他自治体の参考になるように活用についても検討していくと良い。
会長	マンガ自体は完成度の高いものができたので、具体的な方法について検討していただきたい。
委員	小学6年生に薬物乱用防止を前提とした受動喫煙防止の講座を行っている。講座内容は、保健センターと協働で作成したオリジナルDVDを使って受動喫煙の恐ろしさを中心に伝えている。講座の最後に誘われた時の断り方を聞いている。断り方を考えて書くのも大事だが、みんなの前で発表するのも大事だと思う。 講座ではパンフレットを配布し、家で話してくださいとお話ししている。 このマンガはその一助になる。大人も理解しやすい良い題材ができたと思う。
会長	ぜひいろいろな形で活用していただきたい。

(3) 令和7年度の活動について

事務局	資料に沿って説明
会長	ご意見、ご質問はありませんか
委員	妊婦の数は年々減っている。妊娠を認知された段階で背景等を問診する。喫煙者は少しいるが、喫煙の胎児への影響や妊娠期の影響を説明するとほとんどの人がやめる。 ただ、夫の喫煙が多い。アプローチもするが変わらない人が多い傾向。夫への直接のアプローチはしておらず、妊婦に伝えている。妊婦から夫に伝えてもらっている。胎児への影響や育児への影響は分かっているが、イライラするから、夫婦仲が悪くなるからと言われる。妊娠期はメンタル面ナイーブになりやすくサポートが大切なので、夫への指導は病院からは伝えにくい。 妊娠中はほとんど禁煙するが、産後の再喫煙はいるかもしれない。突然死症候群のリスクを伝えると禁煙しやすい時期だと思う。妊娠は禁煙の良いきっかけなので、そこでのアプローチは効果があると思う。
委員	園児の保護者の喫煙者少なくなっている。タバコを知らない子どもたちが増えている。きょうだいが学校でマンガをもらって来て家で話が出るようになると、園児も触れることができる。第1子はそのような機会がない。園庭開放等で広めていきたい。
委員	若い世代の喫煙率は大きく減少している。しかし、加熱式タバコに切り替わっており、加熱式タバコを喫煙と認識していない人がいるという調査結果がある。今までは禁煙がゴールだったが、タバコを切り替えることがゴールになってしまっている。禁煙を専門職からきちんと伝えてほしい。 妊婦はほとんど禁煙するが、産後の再喫煙多い。子どものためにやめるという動機があるが、子どものためだけでなく自分のためにやめることが妊婦も夫も必要だということが研究で言われている。ご自身のためにというところを強調すると良いと思う。
会長	妊娠をきっかけに親も健康を意識してもらうことが大切。
会長	講演会の講師の案として産業医科大の大和教授は熱意があり良いと思う。

事務局	貴重なご意見をいただきありがとうございました。検討していきたいと思う。 マンガは完成したらお送りします。
-----	---

4. その他連絡事項

(1) 委員の任期について

異動等で交代があれば事務局に連絡をお願いします。

(2) 次回の会議について

令和7年夏頃を予定している。